

# 海外語学研修（台湾） 報告書

医療科学部 放射線技術学科 1回生 松本 唯

この大学に通っているからこそ経験できる貴重な機会を逃したくない、という一心で参加させていただきました。この1週間、日を追うごとに私は積極的になることができその都度、充実感が増していきました。つまり、それだけ実の詰まったプログラムだったのだと思います。想像していた以上に多くのことを学ぶことが出来ました。その内のほんの一部ではありますがご報告したいと思います。

## <3か国語が飛び交う教室>



中国語を学ぶ授業では主に台湾の学生たちが積極的に教えてくれました。私も日本語を彼らに積極的に教えるようにしていました。そのため受け身ではなく、終始皆の学習意欲が授業を作っていたと思います。このように彼らとお互いの母国語を英語で教え合う、つまり1度に3か国語を使うという経験は非常に新鮮でした。いつもより速いスピードでものにすることができていた気がします。授業以外でも常に三か国語を使って話していました。彼らとの何気ない会話の中から日常でよく使う中国語を学ぶことができました。

## <彼らにも知ってほしい>

2つの病院を訪ねました。そこでは新人技師の育成方法や病院内見学や健康志向の病院食など病院ごとのこだわりを実際に見たり、話を聞いたりしました。他に台湾の医療制度についても初めて学びました。私たち日本人が台湾の医療制度に興味を持つように彼らも日本の医療制度に興味を持っていました。「日本に留学をして日本の高齢者福祉について学びたい」と話してくれた台湾の学生もいました。病院見学に行ったことで台湾の医療制度を知ることだけに留まらず、私自身が日本の医療制度についてもっと知りたい、台湾の学生たちにもぜひ知って欲しいと感じました。

## <異国で日本を感じる>

台北市内を観光した日は、日本が台湾を統治していた時代に建てられた神社に行ったり、夜市のお店で日本で一昔前に流行ったキャラクターものが売っているのを見ました。大学前の全家（ファミリーマート）にも日本で見慣れたアイスやお菓子が売っていたので、台湾にいながら日本を感じる機会が多かったです。



## 〈もちろん台湾文化も〉



授業の中で台湾の文化について教わる機会が多々ありました。昔、日本に統治されていた時代があったとはいえ、日本にはない台湾独自の文化がそこにはしっかりと確立されていました。特に旧正月興行のメインイベントである龍踊りは台湾の子たちでさえめったに経験できないことだったようでお互いに楽しみながら学ぶことが出来ました。

## 〈錄影申請微笑〉

「撮影中ですので微笑んでください」そう書いてあると思い、台湾の学生に“very funny.”と伝えました。私はこの時、台湾はすごくユーモア溢れる国だと感じました。しかし反応がすごく微妙だったので私の解釈が間違っていることにすぐに気づきました。聞いてみると‘防犯カメラ作動中’という意味だと台湾の学生が教えてくれました。そのこと知った時は思わず微笑んでしまいました…



## 〈最後まで…〉



出発前日の夜に行われた歓送迎会では台湾の学生たちがこれまでにとった写真や動画を一つの動画にして見せてくれました。一枚一枚に思い出が詰まっていて、彼らとお別れするのが本当に辛くなりました。他にもダンスを披露しあったり一緒に歌ったり踊ったり夜遅くまで語り合ったりもしました。最後の最後まで賑やかで、他人に気を使うことができる思いやりに溢れる人たちでした。

彼らと共に寮で寝泊まりしたこと、観光地を案内してもらったこと、台湾の文化・中国語を学んだことは私の貴重な経験になりました。こうして現地の学生たちと関わり、自国について教え合うことができ良かったです。個人で旅行に行っても経験できないことがたくさん経験できました。私たちの大先輩が築かれた元培科技大学で再び学ぶ機会があれば良いなと思います。



今回お世話になった台湾の学生たちとの出会いを大切にして、今後も交流を続けていきたいと思います。最後になりましたが、この研修に携わって下さったすべての方々から感謝いたします。本当にありがとうございました。